

令和 5 年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 4 7 ） 学校名 豊田市立土橋小学校

1 テーマ

21 世紀を主体的に生きぬく土橋っ子の育成
—「人とのつながりを大切に」—

2 ねらい

- ・生活科・総合的な学習の時間を核とした教科等横断的指導計画を中心に、各教科との関連を図りながら教育を実践し、6 年間の学びを通して環境に配慮した望ましい行動ができる子を育成し、学びの成果を家庭・地域・外部講師、関係大学の学生等に発信していく。
- ・ESD から SDG s に視野を広げ、環境教育だけでなく、マザーテレサ隊の活動を通して貧困問題を考えたり、いのちの学習に取り組んだりすることで、みんなで支え合う、誰一人取り残さない世界を目指す人づくりを行う。
- ・様々な人とのつながり、外部講師や地域の方など、その人の生き方から学ぶ機会を設定し、心の教育を進めていく。

3 活動内容

- （1）様々な人とのつながりを大切にし、その人の生き方から学び、平和な世界や思いやりの心を大切にする心の教育を進めた。
- （2）教科等横断的指導計画による授業プログラムを実践し、6 年間の学びを通して、エコガイド＝環境に配慮した望ましい働きかけができる子どもを育成し、学びの成果を発信した。
- （3）教科等横断的指導計画に基づく 3 年生の校外学習では、「足助の街並み」を活用した景観環境学習と社会科の「古い道具とまちの暮らし」の学習を行い、車窓からのながめから見つけたこと、あるいは、街並みを歩きながら見つけたことをもとに、講師から話を聞き、昔の人の知恵や工夫について学びを深めた。
- （4）地域学校共働本部、PTA と連携して学校ボランティアとのつながりを大切にし、読み語り、環境整備等で地域の人材を学校教育に取り入れ、地域とのかかわりの中で学校教育をすすめた。
- （5）心の相談員の時間数を増やし、心の問題を抱えた児童によりそった対応を行った。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・教科等横断的指導計画に基づき、環境に主体的に働きかける「行動できる子」を育成できるよう総合的な学習の時間を中心に実践を積み重ねた。3年生は、ビオトープの生き物について調べ、生き物が住みよい環境について学んだ。4年生は、学校の樹木について調べ、1年を通してどのような変化があり、樹木が自然環境に対してどのような働きかけをしているのかを学んだ。5年生は、本校校舎の設計士である久保さんを講師として、環境に配慮した校舎のつくりやトイレの工夫について学んだ。6年生は、今まで学んだことを総合的に結び付け、環境に配慮したエコスクールである土橋小学校の校舎の工夫を発信するエコガイドの活動を行った。愛知産業大学、名古屋女子大学、名城大学、椙山女学園大学の教授や学生を招いてエコガイドを行った。また、2月15日には、学校公開日において保護者に向けてエコガイドを行った。子どもたちは、効果的な伝え方を考え、実験器具やICT機器を活用して学びの成果を最大限に生かして発信することができた。

<参加された学生の声>

- 資料に関して、話す内容に分けて項目をつくったり、実際に実験した動画や写真を使ったり、クイズもやったりと興味がわく内容でしたし、体験できるところもあり、目で見て、耳で聞いて、手で触れて楽しく面白い経験ができました。みなさん原稿を覚えて頑張って発表している姿がかっこよかったです。もっとよくしていくために、資料では伝えたい大切なところは文字を太くしたり、色を変えて注目させてみたり、余白を絵やイラストで埋めて見たり、アニメーションを付けてみたりしてもよいと思いました。
- クイズや実験で、一緒に参加できたり案内してくれた子が豆知識を教えてくれたり、土橋小学校でしか学べないたくさんのことを学ぶことができました。SDGsやエコについて、みんなは私が小学生だった時より確実にたくさんの知識を持っています。総合的な学習の時間でこの勉強ができていることは、ずっとみんなのためになっていくと思います。
- 気になった点が2つあります。1つ目は、スライドと人が重なっているところです。周りの子たちは、座ったり横にずれたりスライドと重ならないようにするとよいと思います。スライドを指し示す子と話す子は別でもよいかもしれません。2つ目は、スライドの内容です。言葉遣いがバラバラであったり、話す内容がそのまま入っていたりと、必要以上に長い文や文字の細かさになっていると思います。箇条書きや文字の大きさを大きくして簡潔にし、声で説明するともっとよくなると思います。みんなががんばろう、やろうとしていて努力を感じました。これからもっとうまくなっていくと思います。

- ・「マザーテレサ隊」として支援物資を回収し、インドの子どもたちに贈る活動は、今年で19年目を迎えた。6年生の有志がマザーテレサ隊を結成し、今年は全校児童に呼びかけ、インドの貧しい子どもたちのために支援物資を集めた。12月18日には、「まごころ贈呈式」を行い、国際ボランティアグループ理事長の久野未耶子さんにインドに届けてもらうよう物資を手渡した。久野さんより、インドの子

どもたちの現状、支援物資を受け取った子どもたちの様子を伝えていただき、人、命を大切にすることについて話していただいた。子どもたちは、物を贈るだけでなく、温かい心も一緒に届けたいという思いをもつことができ、心の成長につながった。今回集まった支援物資は、久野さん自身が直接インドに出向き、インドの子どもたちに渡してくださる。

<児童の声>

- マザーテレサ実行委員としてインドのことについて調べ、全校に発表できたことはとてもうれしかったです。久野さんはこれまで 51 回もインドに行き、毎回インドの人を助けています。ぼくもみんなにやさしくしたいです。
- インドの人を助ける、幸せにするという久野さんはすばらしい人だと思います。私は久野さんのように人を助けられる人になりたいと思いました。私はインドまでは行けないけれど、この土橋小学校のみんなを幸せにしたいと思いました。
- 久野さんのお話を聞いて「真心」について興味をもちました。5 年生までは「真心を届ける」という意味がよくわかりませんでした。だって物資を届けるのに「真心？」と思っていたからです。しかし、6 年生になって学校を引っ張っていく立場になって話を聞くと少し考えるようになりました。「困っている低学年を助けることも、インドの人たちに物資を届けることも、スケールは違うけれど同じことだ」と思いました。12 月の贈呈式ではインドの人に「真心」を届けたいです。

(2) 補助員を配置したことによる成果

- ・図書館司書により、蔵書の整備や整頓が的確に行われ、読書環境の充実を図ることができた。また、古くなった状態のよくない本、内容が今の時代に合わなくなった本の廃棄を行い、蔵書を充実させることができた。さらに、月 1 回の読み語りに積極的に参加し、子どもたちの読書に対する関心を高めることができた。本校の読書環境に対する保護者アンケートの結果は平均 3.2 と高評価だった。
- ・心の相談員を配置したことにより、学校生活やクラスの雰囲気にも馴染めず、落ち着かない児童に対して、ゆっくり話を聞き、リフレッシュする機会をつくるなど児童の心に働きかける支援をすることができた。また、児童が相談しやすいように相談ポストを設置し、児童が相談したい内容をポストに入れておくと、心の相談員から声をかけ、悩みを聞き、本人に寄り添うことができた。担任や養護教諭といった教員とは違う立場で児童とかかわってくださり、児童の相談窓口が広がった。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページ「新着情報」で各学年の取組をタイムリーに紹介した。
- ・学校だより「泰山木」で、学校・学年の取組を 6 回（9 号中）紹介した。
- ・授業公開日で特色ある学校づくり推進事業に関わる公開授業を行った。（2 月 15 日）